

名刺を5種類持ち歩いていた

——経営に携わることになった経緯を教えてください。

安岡…私の親父は木工所を営んでいて、建具を作っていました。それを見てきたから、もともとモノづくりには興味があったんです。大阪で着物を販売する仕事をしていたのですが、先代の田名部社長に誘われて32歳の頃に入社しました。

最初は右も左もわからなかったが、お客さんを次から次へと訪問していくうちに、モノづくりが面白くなってきた。その後、数年間は総務課長、経理課長、営業部長など4、5種類の名刺を持ち歩いて仕事をしていました(笑)。外部との折衝を長くやっていたことが認められて、96年に社長に就任しました。

田名部…若い頃は、新聞や雑誌で見る経営者は雲の上の存在で人種が違うと思っていました。外資系の銀行に7年間勤めて大手企業の経営者とお会いしているうちに、「どの経営者も特別な人ではない」、「経営は楽しいものだ」とわかった。経営者の方々に感化されたのでしょうか。それで経営に興味を持つようになった。97年に三松に入社してからは、銀行との折衝やシステム開発に注力しました。

前段階は最先端技術、仕上げは匠の技

——事業内容を教えてください。

安岡…薄板金加工をベースにした製造代行サービスを幅広い分野に提供しています。具体的には半導体製造装置、携帯電話基地局、建築関係、コインパーキング・システムなどの



1. 受付では笑顔であいさつ! 2. 総敷地面積800㎡の本社工場 3. 現場から新たな工夫が生まれる

——三松の技術力の特徴は何でしょうか。

田名部…弊社の特徴は設計、開発、加工、塗装まで全部できること。薄板金加工を基本技術としており、溶接と塗装においても高い技術レベルを誇っています。たとえば、塗装については大型サイズまで対応できますし、九州で3本の指に入る技術があります。

——高い技術レベルとは具体的にどのようなモノですか。

安岡…半導体製造装置のフレームを溶接する際には、2.5メートル角で誤差プラスマイナス2ミリの収めるのですが、弊社では1ミリまでに収めることができます。他社では難しい精度です。から、その分野では独占状態ですね。

田名部…弊社の特徴は、最先端の加工技術と職人のきめ細かい技術の融合。前段階で行うのは工場内ネットワークで連携したNC機械で、切削加工などを行います。そこでは高い技術のオペレーターが担当しますし、後段階では熟練した職人が手作業で仕上げをします。

薄板金加工の技術で自転車も作れる



学生のうちは思いっきり遊んでおけ。それが社会に出てから必ず役立つ。

ユニット部品です。そのほかには農林水産、医療、厨房などに関係する製品があります。小ロットに対応しており、1個からでも作ります。

——製造代行サービスとは何ですか。

安岡…今後、ますます技術が高度化していきますから、技術をユーザーにわかりやすく説明して、製造するサービスが必要になると考えています。それを我々は「製造代行サービス」と呼んでいるのです。つまり、技術とユーザーの橋渡し役です。「これを作りたい」という人がいれば、三松が製造に関するすべてを提供します。ケースによっては我々だけでなく、他社と連携してサービスを提供するわけです。

大いに夢を語れ。「できる、できない」は関係ない。夢を語るころからすべてが始まる。



三松 常務取締役
田名部 徹朗
たなべ てつろう

Profile 田名部 徹朗 (たなべ てつろう)
1964年、福岡県生まれ。1986年、早稲田大学政経学部を卒業後、三菱重工に入社。その後、シティバンクで銀行業務を7年間経験した後、(株)三松に入社。2001年、常務取締役に就任。

三松 代表取締役
安岡 貞勝
やすおか さだかつ

Profile 安岡 貞勝 (やすおか さだかつ)
1950年、福岡県生まれ。1972年、福岡大学経済学部を卒業後、呉服商社に入社。1982年、(株)三松に入社。総務、経理、営業の要職を務めた後、1996年、取締役社長に就任。

——最新機器を多数設置していると聞いていますが。

田名部…はい、そうですね。最新機器を1〜2台所有しているところはありますが、多数台をすべてネットワーク化して連携させている会社は少ないでしょう。現在の生産管理のシステムは私を中心となって構築しましたが、一つ一つの作業手順を紙に起こしてフローチャート化することから作り直しました。現在ではCADの設計データを工場内ネットワークに流せば、各装置で加工して完成品ができあがります。

既存技術が新産業で花開く

——半導体関連の仕事はどのようなものですか。

安岡…20年くらい前、我々は海苔を海水からあげて一枚の海苔製品にする全自動機をステンレスで作っていました。当時、ステンレスの加工は非常に珍しいものでした。そして12年前に、その技術が認められて半導体製造装置のステンレス部品を担当するようになりました。

——新しい産業に既存技術が活かすための工夫はありますか。

安岡…携帯電話関連でもそうですね。タバコやシイタケなど農産物

を乾かす乾燥室を作っていたんです。その技術を携帯電話基地局のボックスに応用できたのです。パネルを合わせる組み立て式のボックスですが、乾燥室を作っていた当時は、そんなことは考えもしなかった。10年前から急速に伸び始めて、大きな売上になっていきます。こちらから狙ったのではなく偶然、仕事の話が飛び込んできたんです。その時、「無駄になる技術はない」と実感しましたね。

得意技術を発信し、幅広い分野で新事業を開拓

——今後のビジョンを教えてください。

田名部…環境や医療など、さまざまな分野の製品を手がけていきます。

——学生へのアドバイスをお願いします。

それは新規開発でもあり、リスク分散という意味合いもある。会社が人やけどをしない範囲内で新しい分野に挑戦していけば、今後の会社の方向性を見極めることができます。そのような仕事に対応できる社員を育て、会社のインフラ構築を積極的にやっています。

安岡…小さな器具から大きな装置、そしてロボットまで作れる会社になるかと思っています。具体的には部品ユニットだけでなく、装置全体を作りたい。今後は我々から情報発信して、得意技術を組み合わせる新機能の製品を打ち出していきます。受け身ではなく、情報を積極的に発信して新分野を開拓していく。

安岡…思いっきり遊ぶことですね。最近の若い子はちよつと元気がないかもしれない。「自分の力を思いっきり発揮して暴れた」という気持ちでほしいですね。また遊びでも勉強でも、さまざまな経験をして自分を磨いていくこと。それに、社会に出ることは楽しいことです。だから仕事に前向きに取り組んでください。

田名部…どんなことでもいいから自分の夢を持ってほしい。「実現できない、できない」ということにこだわらないで、大いに夢を語ってほしい。パイロット、プロ野球選手、ラーメン屋、何でもよい。夢を口に出して、語り合ってください。私は社員の夢を叶えられる場を、できるだけ多く提供していきたいと思っています。

※ NC [Numerical Control] 「数値制御」の略。職人の経験や勘に依存していた工作機械の操作を、数値によって自動制御すること。その仕様の機械を NC 工作機械という。

※ CAD [Computer Aided Design] 「コンピュータ支援設計」の略。建築物や工業製品の設計にコンピュータを用いること。製図作業・図面作成など、これまで人の手に頼っていた作業がコンピュータの利用によって短時間で正確に処理できるようになった。製図作業の大幅な効率化をはじめ、設計・製図作業における「革命」とも言われている。

The Management Data File
経営者データファイル

お名前……………安岡 貞勝
生年月日……………1950年3月18日
福岡県生まれ
身長……………167cm
体重……………64kg
平均睡眠時間……………6時間

平均起床時間……………午前6時
趣味……………山登り
乗っている車……………マークX
今までに訪れた国……………2カ国
座右の銘……………生き活きと生きる
今日の財布の中身……………6万円
好きな食べ物……………種類
嫌いな食べ物……………なし

The Management Data File
経営者データファイル

お名前……………田名部 徹朗
生年月日……………1964年3月8日
福岡県生まれ
身長……………174cm
体重……………70kg
平均睡眠時間……………6時間
平均起床時間……………午前7時
趣味……………読書 旅行

乗っている車……………レガシー
おススメ本……………「坂の上の雲」
家族……………4人
今までに訪れた国……………20カ国
座右の銘……………無為自然
購読雑誌……………日経ビジネス、日経ベンチャー
尊敬する人……………織田信長
今日の財布の中身……………8万円
好きな食べ物……………焼肉
嫌いな食べ物……………なし

会社概要 株式会社 三松

所在地 ● 福岡県筑紫野市岡田3丁目10番9号
設立 ● 1972年(昭和47年)3月
資本金 ● 8500万円
事業内容 ● 薄板金加工をベースにした製造代行サービス 社員数 ● 134名



URL ● http://www.sanmatsu.com

就職情報はコチラ

＜ “製造代行サービス”でユーザーと技術の橋渡し役に徹する ＞

創業から35年連続
黒字経営!

設計、開発、加工、塗装など製造に関わるすべてにおいて高い技術レベルを誇る三松。ユーザーと技術の橋渡し役に徹した「製造代行サービス」で日本のモノづくりを支える。創業以来、35年連続黒字を続ける三松の社長、安岡貞勝と常務の田名部徹朗に話を聞いた。

